

# 平成28年度 施策評価シート

基本目標	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	450: 障害者が尊厳をもち、安心して暮らせるしくみをつくる
施策	452: 障害者の社会参画と自己実現を支援する
施策の目標	障害者が、さまざまな場面で社会参加ができ、障害の有無に関わらず誰もが適性や能力に応じて働くなど、活躍しています。

## 1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
障害者雇用率(東京労働局等データからの推計値)	%	1.75	1.56	1.53	1.62	1.66	1.67
区の障害者就労支援センターを通じて就労した人数	人/年	50	29	51	58	65	60

## 2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
錦糸公園の清掃(就労支援事業)	回	57	57	57	57	57

## 3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>障害者総合支援法の推進や障害者の雇用促進に関する法律の改正等があり、区障害者就労支援センター利用者及び企業等への就労者数は着実に増えている。</p> <p>しかし、区内企業の障害者雇用率(平成27年度)は、全国1.88%、東京都1.81%と比較して低調である。今後は、障害のある方及び障害のある方を雇用する企業に対する支援の充実を図るとともに、ハローワーク等の障害のある方の就労を支援する関係機関と連携して、職場開拓の強化等が求められる。</p>

## 4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
<p>【上記の判断理由】</p> <p>平成25年度は、障害者雇用促進法が改正され、また、障害者優先調達推進法が施行されたので、さらに軽度の障害のある方から重度の障害のある方まで、さまざまな形で社会参画と自己実現ができるよう図っていく必要がある。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>工賃向上のために、福祉作業所等への共同販売・新商品開発等の支援、障害者優先調達推進法の啓発を行うとともに、障害のある方の就労支援に関する区の中核施設である「すみだ障害者就労支援総合センター」において、職業訓練、就労支援、職場定着支援、生活支援等を着実に実施していくとともに、ハローワークや障害者施設等の障害のある方の就労を支援する関係機関とネットワークを構築し、サービスのさらなる充実を図る。</p>

## 5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	障害児日中活動事業補助	障害者福祉課	4,526	現状維持	事業予算と事業効果に課題がある。
2	心身障害者団体連合会補助	障害者福祉課	11,215	現状維持	
3	亀沢のぞみの家通所訓練所補助	障害者福祉課	42,871	現状維持	
4	障害者福祉喫茶の運営費補助	障害者福祉課	6,649	改善・見直し	長期的な視点で事業の見直しを行う必要がある。
5	短期入所施設運営補助事業	障害者福祉課	8,328	現状維持	
6	錦糸公園清掃業務委託費	障害者福祉課	11,862	現状維持	
7	日中活動系サービス支援事業所運営補助事業費	障害者福祉課	39,331	現状維持	
8	すみだ障害者就労支援総合センター整備事業費	障害者福祉課	109,015	現状維持	
9	心身障害者の雇用拡大を図るための施設整備助成制度	障害者福祉課	0	現状維持	
10	障害者による地域緑化推進事業	障害者福祉課	8,141	現状維持	
11	すみだふれあい福祉作業所通所者送迎バス借上事業	障害者福祉課	9,964	現状維持	
12	グループホーム支援体制強化補助事業	障害者福祉課	10,196	現状維持	
13	墨田福祉作業所事業費	障害者福祉課	46,023	現状維持	H30年廃止・民営化
14	すみだ厚生会館事務事業	障害者福祉課	11,838	休止・廃止	H27年度廃止
15	すみだふれあい福祉作業所事業	障害者福祉課	50,853	現状維持	
16	作業所等経営ネットワーク支援事業	障害者福祉課	4,507	拡充する	長期的な視点で拡充を検討する。
17	障害者施設の新商品開発等支援事業	障害者福祉課	3,500	拡充する	今後、販路拡大にも力を入れる。
18	障害者就労継続支援事業所・施設整備支援事業費	障害者福祉課	180,914	拡充する	H31年度オープンに向けて、旧寺島図書館跡地を整備する。

## 【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 1

作成年月日: 平成28年6月1日

事務事業名	障害児日中活動事業補助		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	障害児日中活動支援事業費		執行実績報告書ページ	94-5(5)カ

1 事業の概要

前身の「障害者(児)通所訓練事業補助」のうち、法内事業に移行できない任意団体が行う事業に対して、平成23年度から補助を実施している。その際、活動実績が補助金の額に連動するよう、補助金のしくみを見直した。	事業開始年度	平成23年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
障害児日中活動事業を運営する団体	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
運営費等の補助を行うことにより、事業の安定化を図る	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害児の放課後活動や地域生活を充実させる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	延べ参加人数	人	目標値	1600	1600	1500
			実績値	1,522	1,417	895
成果指標 (目的に対する指標)	延べ開所日数	日	目標値	200	200	200
			実績値	193	207	177
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
参加者が減少傾向にあり、一団体においては補助条件を満たせない可能性がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	障害者自立支援費	
27年度歳出予算額	6,714	27年度歳出決算額	4,526	27年度執行率	67.4%	28年度歳出予算額	6,317
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 有	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	障害児日中活動事業運営費補助金						
27年度実績額	4526	28年度予算額	6,317	対象	独楽の会・チームひまわりっ子		
開始年度	平成23年度	根拠法令	墨田区障害児日中活動事業運営費補助金交付要綱				
算定基準	区長単行決定による			補助率	2分の1		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
事業開始時と制度が変わっており、他の制度や事業でも対象団体及び対象者のニーズに応えることができると考えられるため。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
参加者が減少傾向にあるため。				
(3)事業の効率性	評価結果	非効率	前年度評価	低い
予算額に対し、活動日数や参加者が少なく非効率的であると考えられる。				
(4)現状と課題	参加者全員が区外在住者かつ参加者が減少し、補助条件を満たせない可能性がある団体もある等、課題は多い。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	団体によっては参加者の減少により、補助条件を満たせない可能性がある等、事業の効率性が低下しているが、活動団体との関係もあり、制度としては現状維持とする。
今後の方向性 (見直しの視点)	活動団体の状況にも配慮しつつ、家賃補助の廃止等、費用対効果に見合った見直しを検討する。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 2

作成年月日: 平成28年6月17日

事務事業名	心身障害者団体連合会補助		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	心身障害者団体事業助成費		執行実績報告書ページ	89-6.7

1 事業の概要

区内唯一の心身障害者団体の連合体である、墨田区障害者団体連合会の運営及び自主活動事業への補助を通じ、障害者福祉の向上を図る。	事業開始年度	昭和48年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		墨田区障害者団体連合会及び障害者	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		運営費や各部会の活動費等の補助	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		会の運営が安定的になり、各部会の自主活動が活発化している	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	所属部会数	部会	目標値	6	6	6
			実績値	6	6	6
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)				活動費の補助により、部会の活動は活発になっている。		

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度歳出予算額	11,433	27年度歳出決算額	11,215	27年度執行率	98.1%	28年度歳出予算額	12,809
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	行政財産の使用許可に伴う経費		収入額	30	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区障害者団体連合会補助金					
27年度実績額	11,215	28年度予算額	12,809	対象	墨田区障害者団体連合会		
開始年度	昭和48年度	根拠法令	墨田区障害者団体連合会補助金交付要綱				
算定基準	単年度区長決定			補助率	人件費や部会活動費等		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
毎年、連合会からの要望を受け補助内容を検討しているため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
各部会の自主活動が活発に行われているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
自主財源として自販機収入があり、部会活動費への活用が考えられるため。				
(4)現状と課題	新規加入者が少なく、会員の高齢化問題を抱えている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	独自の財源をほぼ持たないため、人件費等の補助は今後も続けていく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	補助の内容は連合会からの要望を受けた上で決定しているが、今後も精査を要する。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	亀沢のぞみの家通所訓練所補助		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	肢体不自由児者通所訓練所運営支援事業費		執行実績報告書ページ	94-7

1 事業の概要

肢体不自由児者通所訓練所を運営する特定非営利活動法人のぞみに対し補助を行い、その経営を安定させるとともに、障害者の福祉の向上を図る。	事業開始年度	昭和46年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
特定非営利活動法人のぞみ・重度肢体不自由児者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
人件費補助・送迎バス費用補助・昼食費補助	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
重度肢体不自由児者が手厚い職員体制のもとで通所できている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	年間延べ利用者数	人	目標値	4550	5100	5000
			実績値	4,586	4,733	4,971
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
事業実績は堅調に推移し、H21年度の法内化により、区の財政負担は大幅に軽減されている。法人の財務状況を精査し、補助金の単価等の見直しを行う必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	障害者自立支援費	
27年度 歳出予算額	44,631	27年度 歳出決算額	42,871	27年度 執行率	96.1%	28年度 歳出 予算額	44,246
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		重度障害者施設支援体制強化補助金					
27年度 実績額	11,040	28年度 予算額	10,080	対象	特定非営利活動法人のぞみ		
開始 年度	平成21年度	根拠法令	墨田区重度障害者施設支援体制強化補助金交付要綱				
算定基準	補助単価×2.4人			補助率	区独自の職員配置基準を設け補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>本事業の実施により、最重度障害者事業所の支援体制が強化されているため。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>最重度障害者が利用者の大半を占める事業所においては、人件費補助による支援体制強化が不可欠であるため。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>補助単価の妥当性を検証していく必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>補助内容について、決算状況を踏まえて継続して見直しを検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	引き続き事業者の財務状況を踏まえた上で、補助内容の見直しを継続していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成25年度から人件費補助について段階的な補助単価引き下げを行っており、今後も、実態に即した適正な補助を行っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	障害者福祉喫茶の運営費補助		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	心身障害者自立支援助成費		執行実績報告書ページ	89-8

1 事業の概要

心身障害者が日常的に働くことのできる福祉喫茶事業の運営経費の一部補助を通じ、障害者の就労機会を確保する。	事業開始年度	平成9年
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		福祉喫茶運営団体・障害者	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		人件費の一部の補助	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		障害者が職員から勤務指導を受けられ、また、来客である一般区民と接客を通じ交流できる	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	来客者数(2事業所合計)	人	目標値	25,000	25,000	26,000
			実績値	24,559	24,993	26,535
成果指標 (目的に対する指標)	雇用障害者数(2事業所合計)	人	目標値	5	5	5
			実績値	5	5	5
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
法に基づかない事業であり、2事業所の運営状況について、注視していく必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度 歳出予算額	7,422	27年度 歳出決算額	6,649	27年度 執行率	89.6%	28年度 歳出 予算額	7,618
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		福祉喫茶補助金(それいゆさんさん)					
27年度 実績額	4767	28年度 予算額	5,317	対象	墨田区手をつなぐ親の会		
開始 年度	平成9年度	根拠法令	墨田区福祉喫茶補助金交付要綱				
算定基準	単年度区長決定			補助率	人件費の一部を補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
法に基づかない事業であるため、事業を積極的に推進する理由に乏しい。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
補助開始当初とは障害者サービス体系が変わっており、検討が必要である。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
経費と障害者雇用数の費用対効果の点から判断した。				
(4)現状と課題	法に基づかない事業であるため、経営が安定せず、区の補助に頼らざるを得ない状況にある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	法的根拠のない事業は安定的な運営が難しいため、長期的な視点で法内化の支援等、別のアプローチによる補助も検討する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	安定した運営を行うために、一つの手段として、法に基づく事業形態へ移行することが考えられる。ただし、法人格の取得や専属の事務員配置等、解決しなければならない課題が多いため、引き続き検討していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	短期入所施設運営補助事業費		所管課・係	障害者福祉課・庶務係
施策	452	障害者の社会参加と自己実現を支援する	連絡先	5608-6466
予算書名称	心身障害者(児)短期入所施設運営補助費		執行実績報告書ページ	94-8

1 事業の概要

墨田区障害者短期入所支援事業補助金交付要綱(平成23年度～) 平成23年度から重度障害者の受入れに対する加算を設け、重度障害者を介護する 家族の負担を軽減することを推進している。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
障害者及び家族・運営法人等					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
民間団体が運営する緊急一時及びショートステイ等の心身障害者(児)事業に対し、運営経費の一部補助を通じ、保護者が安全・安心して障害者を預けることのできる場を確保し、障害者とその家族の福祉向上を図る					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
障害者の地域生活支援の場が確保されている。家族の介護負担が軽減される。運営法人が安定的に事業を運営している					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	重度障害者受入れ延べ人数			人	目標値	1300	1300	1300
					実績値	1,132	1,268	1,361
成果指標 (目的に対する指標)					目標値			
					実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
平成25年度から家賃補助について、稼働率を乗じるしくみに見直したため効果的な補助のあり方となった。引き続き運営状況を注視していく。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	障害者自立支援費	
27年度 歳出予算額	8,918	27年度 歳出決算額	8,328	27年度 執行率	93.4%	28年度 歳出 予算額	9,292
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>重度障害者の場合、家族の介護負担が大きく、短期入所事業を利用する希望者は多い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>重度障害者の受入れに対して、インセンティブが働く仕組みである。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>法外事業所を法内事業所にしたことにより、区の財政負担は軽減されている。</p>				
(4)現状と課題	<p>利用者のニーズは、高いのだが事業者の職員数が不足しており、受け皿が少ない。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>本事業は、短期入所事業を運営する民間団体に運営費を補助する事業である。本事業の実施により、レスパイトが実現されている。今後も引き続き事業を継続していく必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>平成25年度から、事業所の開所日数実績を評価した補助率を導入したが、引き続き実績に見合った補助を実施していく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	錦糸公園清掃業務委託(障害者就労支援事業)		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	錦糸公園・区立公園清掃等業務委託費(障害者就労支援事業)		執行実績報告書ページ	91-23

1 事業の概要

公園の清掃業務を障害者団体に委託することによって、障害者の社会参加・就労の場の拡大・生き甲斐の場の提供など、障害者福祉の向上を図るため、H12年施行、H13年度本格実施に至る。	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田区内の福祉作業所に通所する障害者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
錦糸公園(面積32,470m <sup>2</sup> )の清掃業務を障害者の就労支援事業と位置付け、年間57回の業務	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者の福祉的就労の場が確保されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	清掃回数	回	目標値	57	57	57
			実績値	57	57	57
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
例年、同規模の事業を実施しており、障害者の福祉的就労の場を安定的に確保することが出来ている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度 歳出予算額	11,864	27年度 歳出決算額	11,862	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	12,539
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
障害者の福祉的就労の場が確保できるため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
年間の清掃回数が決まっており、安定的な就労の場を確保できるため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
現時点での公園清掃としては、広さ及び場所として妥当であるため。				
(4)現状と課題	障害者の福祉的就労の場が確保できている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	障害者雇用についてのニーズは、年々増大しており、本事業についても効果は高く、今後も同事業を継続していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	障害者の福祉的就労の場を確保するため、今後も継続していく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	日中活動系サービス事業所運営補助事業費		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	日中活動系サービス事業所運営補助事業費		執行実績報告書ページ	94-9,95-11

1 事業の概要

墨田区障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱 外 社会福祉法人墨田さんさん会と、同法人の運営する事業所に対する補助を行う。	事業開始年度	平成12年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
社会福祉法人墨田さんさん会					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
各種補助金の交付					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
法人の各事業の運営のための経費が賄われている					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	延べ利用者数			人	目標値	25,000	25,000	25,000
					実績値	24,886	24,713	24,845
成果指標 (目的に対する指標)					目標値			
					実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
事業実績は堅調に推移している。今後も法人の財務状況を精査していく必要がある。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	障害者自立支援費	
27年度 歳出予算額	41,855	27年度 歳出決算額	39,331	27年度 執行率	94.0%	28年度 歳出 予算額	46,426
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	日中活動系サービス推進事業補助金(墨田さんさんプラザ分)						
27年度 実績額	17,024	28年度 予算額	17,143	対象	社会福祉法人墨田さんさん会(墨田さんさんプラザ)		
開始 年度	平成23年度	根拠法令	墨田区障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱				
算定基準	要綱に定める			補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
都の補助事業に基づいて実施している補助が多いため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
通所者の負担が確実に減少しているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
都の補助事業を活用することで、区の歳出は抑えられているため。				
(4)現状と課題	都の補助事業で行っている補助が多いため、継続性が課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	既に区独自の補助は、部分的なものに留まっており、これ以上の削減は、利用者負担の増加につながる。
今後の方向性 (見直しの視点)	必要性を精査しながら引き続き実施していく。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月6日

事務事業名	すみだ障害者就労支援総合センター事業		所管課・係	障害者福祉課すみだ障害者就労支援総合センター
施策	452	障害者の社会参加と自己実現を支援する	連絡先	5600-2004
予算書名称	すみだ障害者就労支援総合センター管理運営費		執行実績報告書ページ	96-62(2)

1 事業の概要

平成24年3月1日、すみだ障害者就労支援総合センター条例に基づき、すみだ障害者就労支援総合センター開設・事業開始	事業開始年度	平成23年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>	
企業等就労をする障害のある方 障害のある方を雇用する企業等 聴覚に障害のある方	に対して
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>	
総合相談事業・就労移行支援事業・生活支援事業 総合相談事業・就労移行支援事業・生活支援事業 手話通訳等派遣事業・聴覚障害者生活支援事業	を実施したことで
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>	
企業等就労の実現及び安心・安定した企業等就労の維持 障害のある方の雇用の維持・拡大 生活の安定及び自立	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	事業登録者人数	人	目標値	622	630	700
			実績値	601	683	748
成果指標 (目的に対する指標)	事業登録者の新規就労者数	人	目標値	60	62	62
			実績値	58	65	60

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

障害者雇用納付金制度の対象企業拡大や障害者法定雇用率の改定等により、事業利用者は増加し、就労希望者も増えている。それに伴い、障害のある方の就労及び定着に要する支援は質量ともに増加している。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	項	目		
27年度 歳出予算額	110,738	27年度 歳出決算額	109,015	27年度 執行率	98.4%
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 有	一般財源 有	28年度 歳出 予算額  110,461
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	就労移行支援自己負担		
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		利用者交通費			
27年度 実績額	229	28年度 予算額	420	対象	交通機関を利用しなければ通所することが困難である 就労移行支援施設利用者
開始 年度	23年度	根拠法令	墨田区福祉作業所等利用者交通費支給要領		
算定基準	住居から施設までの間の1か月定期乗車券 の購入に要する額(割引額控除)		補助率	100%	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
ニーズは高く、関係機関のネットワーク構築など現状では区が行う必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
障害者雇用促進法等の改正により、障害のある方及び企業等からのニーズは高まっている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
区と民間委託事業者双方の専門性や特長を生かし、連携して事業を展開している。				
(4)現状と課題	障害のある方及び企業からのニーズが増加し、多様化していること。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	企業就労により障害のある方の自立助長を図ることができる。また主な収入が障害基礎年金程度の障害のある方を一般就労に結びつけることで障害福祉サービス費や生活保護費の抑制、非課税世帯から課税世帯への転換などの効果が見込める。
今後の方向性 (見直しの視点)	すみだ障害者就労支援総合センターの機能を最大限に生かして、企業等への就労を希望する障害のある方や就労する障害のある方に対して、就職支援、職場定着支援、職場開拓等を着実に実施するとともに、障害のある方の就労を支援する機関のネットワークを活用し、事業の強化を図る。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月6日

事務事業名	心身障害者の雇用拡大を図るための施設整備助成制度		所管課・係	障害者福祉課すみだ障害者就労支援総合センター
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5600-2004
予算書名称	福祉環境整備助成事業費		執行実績報告書ページ	92-27

1 事業の概要

平成2年10月 事業開始(商工部生活経済課事業) 平成19年4月 障害者就労支援センター(すみだふれあいセンター)事業となる。 平成24年3月 すみだ障害者就労支援総合センター事業となる。	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
障害のある方を雇用する区内中小企業等	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
企業等の職場環境整備に対する助成金の支給	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
企業等の職場環境の整備により障害のある方の雇用等が促進させる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	支給件数	人	目標値	1	1	1
			実績値	0	1	0
成果指標 (目的に対する指標)	新規就労者数	人	目標値	60	62	62
			実績値	58	65	60

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

障害者総合支援法の推進や障害者雇用促進法の改正等により、障害者雇用義務対象となる区内中小企業が増えている中、潜在的な需要があると考えられる。今後は、広報活動と併せて、センター生活支援事業における企業支援の中で、施設整備方法について積極的に企業に提案していく必要がある。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	項	目		
27年度 歳出予算額	500	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	0.0%
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源	28年度 歳出 予算額
	無	有	無	無	
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称			収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		心身障害者の雇用拡大を図るための施設整備助成			
27年度 実績額	0	28年度 予算額	2,000	対象	障害者を雇用する区内中小企業等
開始 年度	平成2年度	根拠法令	障害者の雇用促進と作業所等における生産活動等の機会拡大を図るための施設整備助成要綱		
算定基準	障害者を雇用するために必要な施設の設置 工事及び整備改修工事等の一部		補助率	200万円を上限(1/1)	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
障害者総合支援法の推進や障害者雇用促進法の改正等により、障害者雇用義務対象となる区内中小企業が増えている中、潜在的な需要があると考えられる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
既助成企業については障害者雇用に有効に活用されている。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
事業規模は小さいが手続き等に専門的知識を要するため、現状として直接区が行うのが妥当である。				
(4)現状と課題	広報活動等を行っているが、事業者からの相談は少ない。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	近年、障害者法定雇用率の改定や雇用納付金制度の改正があり、潜在的なニーズはあると思われる。
今後の方向性 (見直しの視点)	区報・HPへの掲載や関係機関に周知して、PR強化を図るとともに、センター生活支援事業における企業支援の中で、施設整備方法について企業に提案していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	障害者による地域緑化推進事業		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	障害者による地域緑化推進事業		執行実績報告書ページ	91-24

1 事業の概要

区内の作業所における平均工賃は、月額18,000円であるが、国は「工賃倍増計画」を策定し、障害者の工賃の底上げに取り組んでいる。しかしながら、社会経済状況の悪化等から工賃の向上どころか、現状を維持することも困難な状況にある。こうしたことから、H21年度から障害者施設における安定的・継続的な作業を創出することを目的に、3作業所において本事業を開始した。H22年度からは6事業所に拡大した(別途、保健計画課でも実施)。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
就労系障害者施設に通所する障害者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区立公園を利用して花壇などの緑の創出とその保全業務を、障害者の業務とすること	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
工賃が向上している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施事業所数	事業所	目標値	6	6	6
			実績値	6	6	6
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
H21年度は3作業所にて事業を開始し、H22年度からは、6事業所に拡大している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費
27年度 歳出予算額	8,142	27年度 歳出決算額	8,141	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>国の工賃向上計画等から各作業所における工賃向上に係る区の支援が不可欠である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>安定的・継続的に取り組める作業であり、障害者施設の特性にもなじむものである。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>都補助金を活用し、区負担金を抑えて実施できている。</p>				
(4)現状と課題	<p>園芸・緑化に関するノウハウをいかに共有していくかが課題である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>社会経済状況の悪化から、就労系障害者施設に対する官公需による工賃向上への取り組みの必要性が高まっている。本事業の実施により、地域の環境美化や障害者施設と地域住民の交流等の副次的効果も得られている。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>障害者優先調達法の主旨にも合致するものであり、継続していく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 11

作成年月日: 平成28年6月3日

事務事業名	すみだふれあいセンター福祉作業所通所者送迎バス借り上げ事業		所管課・係	障害者福祉課すみだふれあいセンター
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5600-2001
予算書名称	すみだふれあいセンター福祉作業所通所者送迎バス借り上げ事業		執行実績報告書ページ	93-5(1)イ

1 事業の概要

平成 6年9月: 運行開始 平成 8年6月: すみだふれあいセンター福祉作業所送迎バス運行要綱に基づき運行 平成 21年4月: 墨田区障害者施設通所移動支援車両運行事業実施要綱に基づき運行 平成 27年4月: 加算制度への移行により、国と都の補助金は廃止される。	事業開始年度	平成6年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>								
福祉作業所通所者のうち、単独通所が困難な利用者					に対して			
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>								
朝夕各1回、送迎バスを運行する。					を実施したことで			
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>								
送迎バスを運行することにより、単独通所困難者の利便を図り、単独通所への訓練の場を提供し、自立の助長を図る。					状態にする。			
<b>目的を達成するための指標</b>								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	送迎バス 延利用者数			人	目標値	5368	4880	3920
					実績値	3,330	2,842	2,375
成果指標 (目的に対する指標)	送迎バス 運行委託費			千円	目標値	/	/	/
					実績値	9,964	9,964	9,964
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>								
就労継続支援B型施設では自力通所を原則としているため、平成27年度まではバスによる通所の支援は出来る限り限定的に運用してきた。そのためバスの利用者は漸減していた。 平成28年度からはふれあいセンター利用者の実態に合わせて、バスの利用が可能な利用者の範囲を拡大する。 それにより、平成28年度の送迎バス利用者は、一日のあたり21人となり、開所日数244日で計算すると、延人数の目標値は5,124人となる。 なお実績は、体調不良等により通所しなかった利用者を除いた数値である。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者施設費	
27年度歳出予算額	9,964	27年度歳出決算額	9,964	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	9,964
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>加齢等による単独通所困難者の増加、車椅子利用可の福作が区内にないため現状では必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>送迎バスサービスがあることにより、自力での通所が困難な利用者にも、B型作業所での就労が可能になるため、事業としては有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>現在送迎バスは、送迎のみに拘らず他の事業においても効率的にも活用している。 頻度 = 月に2～3回程度(スカイワゴン、健康診断、社会自立訓練、スポレク、福祉大会等)</p>				
(4)現状と課題	<p>福祉作業所と重度施設の間施設として開設した経緯から、都内でも珍しい送迎バスサービスを行っている。H21年に就労継続支援B型になり、明確に自力通所が原則とはなったが、従来利用者に加え加齢等による単独通所困難者の増加と、車椅子利用可の福作が区内にないため、送迎バスサービスについては今後は検討する余地があるが、現状では必要かつ有効な手段である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	必要性、有効性はそれなりに高い。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>将来、周辺施設の態勢が整備されるか、ふれあいセンターの機能の見直しがあれば、就労継続支援B型本来の自力通所の原則に戻るようになるため、その際は送迎バスサービスも廃止を含めて見直しが必要になる。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月17日

事務事業名	グループホーム支援体制強化補助事業		所管課・係	障害者福祉課・庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6466
予算書名称	グループホーム支援体制強化補助事業費		執行実績報告書ページ	94-6

1 事業の概要

墨田区共同生活援助支援体制強化補助金要綱(平成25年4月1日施行)	事業開始年度	平成22年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
障害者(障害支援区分5～区分6)障害者福祉サービス事業所(区内の共同生活住居で共同生活援助等を行い、法定基準以上の職員を配置)		に対して				
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
重度の身体・知的障害者に対して、共同生活介護又は共同生活援助を行うために法令等に定める基準以上の職員(世話人)を配置した場合に事業所に補助金を支給する		を実施したことで				
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
事業者は安定的かつ手厚い支援体制と医療連携体制を組むことが出来、重度の障害を持つ利用者も安心あつ継続的に地域生活を送ることが出来る		状態にする。				
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	事業所数	事業所	目標値			2
			実績値	2	2	2
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
平成22年度から実施された事業である。 平成25年度からは、当該事業所を見直して体制強化支援費は、2事業所に支給した。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度 歳出予算額	15,345	27年度 歳出決算額	10,196	27年度 執行率	66.4%	28年度 歳出 予算額	13,027
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
事業者の運営体制の整備がなされ、障害者の地域生活移行への基盤となっている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
重度障害者が地域生活へ移行する場合において、事業者の支援体制強化が必要である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
単価の見直しにより、一定の効果率が図られている。				
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	補助単価・補助率の見直しにより、事業の効率化を図って行く。
今後の方向性 (見直しの視点)	補助内容を見直し、費用対効果の高い事業としていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	墨田福祉作業所事業費		所管課・係	障害者福祉課墨田福祉作業所
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	3613-8735
予算書名称	墨田福祉作業所事業費		執行実績報告書ページ	95-2(2)

1 事業の概要

昭和53年6月 東京都立の施設として開設。昭和55年3月都区間の事務移管により墨田区立の作業所となる。心身障害者通所授産施設(精神薄弱者福祉法) 平成15年10月 知的障害者通所授産施設(知的障害者福祉法) 平成21年4月就労継続支援事業B型作業所(障害者自立支援法)	事業開始年度	昭和53年
	終了予定年度	平成30年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
満15歳以上で、一般就労が困難な障害者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
企業から受注した軽作業や自主生産品(漬物、手作りの小物等)の製造を行いました、利用者ごとの個別支援計画に基づいた支援、レクレーション、健康管理などを	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
月額収益を月1,200千円以上、かつ利用者平均工賃を月額2万円以上とし、一般企業への就労を2名以上出せるような	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	工賃支給延人員	人	目標値	670	672	684
			実績値	620	677	672
成果指標 (目的に対する指標)	作業工賃	千円	目標値	15,000	15,456	1,512
			実績値	15,006	12,895	11,688
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
工賃向上に向けて新規受注企業の開拓、自主生産品の品質の向上と販路の拡大を促進している。しかし景気拡大が中小企業まで浸透していないことや、個人消費が伸び悩んでいることから、受注単価が上がらず結果として工賃向上に至っていない。このため、自主生産品である梅干しの生産量を増やすなどの対策を講じている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者施設費	
27年度歳出予算額	53,130	27年度歳出決算額	46,023	27年度執行率	86.6%	28年度歳出予算額	52,643
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	利用者負担金(給食費)			収入額	4,468
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田福祉作業所等利用者交通費補助金					
27年度実績額	952	28年度予算額	1,032	対象	墨田福祉作業所利用者		
開始年度	昭和55年度	根拠法令	墨田福祉作業所等利用者交通費支給要領				
算定基準	自宅から作業所までの1か月通勤定期の額から障害者割引額を控除した額			補助率	100%		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
知的障害者を主な対象とし、特別支援学校等を卒業し一般就労になじまない15歳以上の者に、就労をはじめとした生活面での支援を行う貴重な場である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
福祉作業所に通所して就労や諸行事に参加することによって、規則正しい生活を行うことができる。このため、社会の一員として自立した生活をおくることができている。また、特別支援学校等の実習生や大学・企業の研修生を受け入れるなど、障害者福祉の啓発や人材育成に積極的に取り組んでいる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
事業運営において利用者の満足度の向上や、工賃の増加のために自主生産の拡大など、創意工夫をしている。				
(4)現状と課題	建物や設備の老朽化が進み、維持補修に多額の経費を必要とする。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	就労継続支援B型作業所としての事業継続が必要なため。
今後の方向性 (見直しの視点)	「第4期墨田区障害者行動計画(後期)」に基づき、老朽化した墨田福祉作業所を平成30年度末を目途に廃止する。平成28年度から社会福祉法人を誘致して廃止後の利用者を受け入れるための施設を新たに整備させ、その施設整備費の一部補助を実施する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 14

作成年月日: 平成28年6月17日

事務事業名	すみだ厚生会館事務事業		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	すみだ厚生会館事務事業		執行実績報告書ページ	95-1(2)

1 事業の概要

昭和43年12月 心身障害者B型センター及び知的障害者通所訓練施設として開設 平成元年5月 区内2番目の福祉作業所として事業開始 平成11年5月 社会事業授産施設に認定 平成21年4月 地域活動支援センター 型へ移行 平成23年4月 就労継続支援B型へ移行 平成28年3月31日閉館	事業開始年度	昭和43年度
	終了予定年度	平成27年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内に居住する心身障害者で、一般企業への就労が困難な年齢15歳以上の者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
福祉的就労の機会を提供するとともに、作業指導及び生活支援等の便宜の提供	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
心身障害者の社会参加の機会を保障する	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	一人当たりの作業工賃支払額	円	目標値	23000	23000	23000
			実績値	23,577	22,153	25,302
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者施設費
27年度 歳出予算額	13,957	27年度 歳出決算額	11,838	27年度 執行率	84.8%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	すみだ厚生会館保護者会給食費補助金					
27年度 実績額	713	28年度 予算額	無	対象	利用者の保護者会	
開始 年度	平成18年度	根拠法令	すみだ厚生会館保護者会給食補助金交付要綱			
算定基準	1食あたり220円		補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	ない	前年度評価	低い
平成28年3月31日をもって、閉館したため				
(2)事業の有効性	評価結果	ない	前年度評価	どちらかといえば有効
平成28年3月31日をもって、閉館したため				
(3)事業の効率性	評価結果		前年度評価	どちらかといえば効率的
平成28年3月31日をもって、閉館したため				
(4)現状と課題				

5 総合評価(課長評価)

評価結果	廃止	判定理由	平成28年3月31日をもって、閉館した。
今後の方向性 (見直しの視点)	民間事業者が新たに開設した事業所に利用者を引き継いでいる。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月3日

事務事業名	すみだふれあいセンター福祉作業所事業		所管課・係	障害者福祉課すみだふれあいセンター
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5600-2001
予算書名称	すみだふれあいセンター福祉作業所事業		執行実績報告書ページ	96-3(2)

1 事業の概要

通常の事業所に雇用されることが困難な障害のある方生産活動等の機会の提供、知識及び能力の向上に必要な訓練等を行うサービス。 平成5年5月：比較的重度の障害者も受け入れる福祉作業所としを開始 平成15年10月：知的障害者福祉法に基づく「知的障害者通所授産施設」に移行 平成21年4月：障害者自立支援法に基づく「障害者就労継続支援事業B型」に移行 墨田区福祉作業所条例及び同施工規則、墨田区福祉作業所運営要綱	事業開始年度	平成5年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		区内に居住する15歳以上の者で、一般就労が困難な障害者	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		利用者の要望等を取り入れた個別支援計画を作成し、それに基づき作業指導、生活支援、就労支援をそれぞれ連携して行う。	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		一般就労が困難な障害者に、就労の機会を提供すると共に、生産活動等の活動機会の提供を通じ、その知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行い、利用者の社会的自立を図る。	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用延人数(工賃支給延人数)	人	目標値	708	720	720
			実績値	682	642	644
成果指標 (目的に対する指標)	作業工賃(年間)	千円	目標値	/	/	/
			実績値	14,805	17,566	14,077
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
定員60人に対して、平成27年4月1日=55人、平成28年4月1日=56人とほぼ定員を満たしている。 利用者の高齢化と重度化(知的28人)に加えて、受託先の企業の業績にも不安があり、受託加工での工賃向上は困難な状況にある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者施設費
27年度歳出予算額	54,918	27年度歳出決算額	50,853	27年度執行率	92.6%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/	
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	利用者負担金(施設利用料・給食費)		収入額	4,325
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		福祉作業所利用者交通費補助金				
27年度実績額	905	28年度予算額	993	対象	交通機関を利用しなければ通所することが困難な利用者	
開始年度	昭和55年度	根拠法令	墨田区福祉作業所等利用者交通費支給要領			
算定基準	1ヶ月定期乗車券の購入額(障害者割引額を控除した額)			補助率	100%	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
障害者総合支援法の理念では、障害者が社会の中で自立して生活することが望まれている。 そのためには障害者の就労を支援していくことが重要であり、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に対して 生産活動等の機会の提供、知識及び能力の向上に必要な訓練を行うことが必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
通常の事業所に雇用されることが困難な障害者については、生産活動に参加することができ、就労の機会に もつながり得るため、本事業は有効である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
利用者に直接関わる部分は区職員が担当し、清掃、運搬、調理等の間接的な部分は業務委託し 効率的に運営している。				
(4)現状と課題	障害者のための就労支援の拡充が求められる中、個別支援計画に基づき、より良質なサービスを提供し ていかなければならない。 工賃の維持・向上のため、今後は受託加工から利用者の特性を活かせる自主生産の活動に移行していく ことが必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	必要性、有効性はそれなりに高いと判断するが、拡充しても効果の拡大まで は期待できない。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者の状況の変化に合わせて、事業のあり方を見直す必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月3日

事務事業名	作業所等経営ネットワーク支援事業		所管課・係	障害者福祉課すみだふれあいセンター
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5600-2001
予算書名称	作業所等経営ネットワーク支援事業		執行実績報告書ページ	91-25(1)

1 事業の概要

ネットワークに参加している作業所の自主生産品を「スカイワゴン」等で共同販売する事業を委託で行っている。 平成21年4月：事業開始(3年間東京都10割補助) 区立3福作でスタート 22年8月：庁舎1階にて共同販売(ワゴン)週2回開始 区内11施設・団体が参加 24年4月：共同販売事務局部分を委託開始。 5月：ソラマチ「すみだまち処」にて販売開始 25年2月：すみだまち処にて5日間の企画展参加。以降毎年参加中。 現在の参加施設団体数 20	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>	
区内の障害者施設・団体	に対して
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>	
庁舎1階での共同販売(週2回)継続。まち処での販売、イベント等への出店。共同受注窓口として調整。	を実施したことで
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>	
共同販売等を通してネットワークを構築。 障害者の社会参加をアシスト(販売によるPR効果・接客体験・作業意欲向上) 販路確保と作業内容のシフトによる工賃等の維持向上。 3障害の交流と、他自治体ネットワーク等との交流。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ネットワーク参加施設・団体数	団体	目標値	16	16	20
			実績値	16	20	20
成果指標 (目的に対する指標)	障害者への還元額合計(概算)	千円	目標値	/	/	/
			実績値	4,830	4,686	5,187

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

共同販売は継続して売上の維持向上が見られ、多くの他の自治体のように売上減が表面化していない。  
 庁舎での販売とソラマチでの販売は、好立地であることと各施設団体とも商品開発等活発に行っているため好調と思われる。  
 共同受注も窓口ができたことによる効果が見られ、今後も増加が予想される(優先調達法により)  
 共同販売部門の事務局委託により効率的な運営ができています。  
 自主生産品の改良・開発にコンサルタントを入れたことによる効果が現れてきている。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費
27年度歳出予算額	4,507	27年度歳出決算額	4,507	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源	/	
	無	有	無	有		4,507
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>他の自治体では対応する組織があるところもあるが、墨田区には共同販売に対応する組織・団体がないため。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>自主生産品の販路を持たない施設が大半なので、貴重な販売機会となっている。 他の自治体等から見学が多く、先進・成功事例となっている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>業務委託先の専従職員が業務に精通してきており、効率的に運用できている。 今後の事業拡大に伴っての委託業務内容の拡大と受益者負担は要検討だが、現状ではほぼ妥当。</p>				
(4)現状と課題	柔軟な発想を持つ民間と、客観的・公平な立場の行政との役割分担と協働がより必要となってくる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	現状効果的な事業であり、拡充することでさらに効果・効率を向上させることが見込まれるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	現状効果的な事業であり、拡充することでさらに効果・効率を向上させ、民間事業者と協働して成果を上げていくことが見込まれる。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 17

作成年月日: 平成28年6月3日

事務事業名	障害者施設の新商品開発等支援事業		所管課・係	障害者福祉課すみだふれあいセンター
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5600-2001
予算書名称	障害者施設の新商品開発等支援事業		執行実績報告書ページ	91-25(2)

1 事業の概要

平成26年4月:事業開始(3年間、東京都5割補助) 都の「経営コンサルタント派遣等事業」の補助金を活用して、区内の民間コンサルタントの支援を受け、26年度は、ネットワークに参加している区内作業所全体の調査を行い、年度後半に3施設の自主生産品の改良・開発を行った。27年度は7施設の改良・開発を行い、イベント出店など販路開拓にも取り組み成果を上げた。	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか	
区内の障害者施設・団体	に対して
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
コンサルタントを活用した自主生産品の改良・開発	を実施したことで
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか	
自主生産品の改良・開発・販売を行うことにより、工賃を向上させ、地域社会と交流し、障害者への理解を深める。 3障害の交流と、区内作業所ネットワークの交流。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ネットワーク企画展(すみだまち処)の「すみのわ」新・改良商品売上額	円	目標値		100,000	300,000
			実績値		79,700	1,000,490
成果指標 (目的に対する指標)	障害者への還元額合計(概算)	円	目標値			210,000
			実績値		55,790	700,343

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

東京都の補助を受けられる期間3年の内の2年が経過したが、作業所の調査、既存商品の改良、新商品の開発、販路の開拓と順調に進み、2年目にあたる27年度は、この事業が改良・開発に関与した商品の売上が飛躍的に増加し、工賃向上に寄与した。区内のクリエイターや製造業者・販売業者と作業所の連携が好循環を産み出し、従来の作業所商品購買層ではない層にも徐々に理解が広がりがつつある。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費
27年度歳出予算額	3,500	27年度歳出決算額	3,500	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	有	無	有		
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
商品の改良、開発、販路開拓には、作業所の力では限界があり、専門家のサポートが必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
商品の改良、開発のみならず、区内の事業者や販路の動向に精通しているコンサルタントの導入は事業に効果的である。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
今後の事業拡大に伴っての委託業務内容の拡大と受益者負担は要検討だが、現状では妥当。				
(4)現状と課題	現状ではほぼ順調に効果を上げているが、今後は以下の点が課題となる。 区内の各事業所が、将来自立して自主生産品の開発・改良を行えるようになること。 区内の各事業所が、それぞれの長所を活かしながら協働し、共同受注・共同販売を進めていくこと。 区民や区内の事業者などに生産・販売のネットワークを広げ障害への理解を深めること。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	現状効果的な事業であり、拡充することでさらに効果・効率を向上させることが見込まれるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	現状効果的な事業であり、拡充することでさらに効果・効率を向上させ、民間事業者と協働して成果を上げていくことが見込まれる。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年決算特別委員会(10月30日)	
	要旨	(西村議員)産業が集積した墨田区の力を活かして市場に乗せらるものを作るべき。来年度以降の継続と充実を期待する。 (松本議員)良い商品は出来ているが、実際に販売できなければ意味がない。区が主催・後援する行事の際に福祉作業所の自主生産品を会場で販売してもらえるよう要請することを検討してはどうか。 (高橋議員)厚生労働省が優秀な自主生産品を表彰している。この賞に応募するくらいの意欲を持って工賃向上を目指していくべきだ。 (おおこし議員)民間の福祉事業団体が市場に出せるような商品を開発し、幅広く販売出来るような支援が必要である。産業経済を含めて品質向上等の多様な支援をお願いしたい。	

事務事業名	障害者就労継続支援事業所・施設整備支援事業費		所管課・係	障害者福祉課庶務係
施策	452	障害者の社会参画と自己実現を支援する	連絡先	5608-6217
予算書名称	障害者就労継続支援事業所整備支援費		執行実績報告書ページ	92-32

1 事業の概要

老朽化した区立福祉作業所の廃止に伴う後継施設整備を行う社会福祉法人に対し、施設整備にかかる費用の一部を補助する。併せて、利用者の円滑な引き継ぎを行う必要があることから、支援業務を委託して実施する。	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	平成30年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
整備・運営事業者となる社会福祉法人	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
新規施設の建設費の一部補助等	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
老朽化した区立福祉作業所を廃止し、行財政改革の推進を図る。 既存施設の利用者に対して、安全で快適な施設においてサービスを提供する。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)			目標値	/	/	/
			実績値	/	/	/
成果指標 (目的に対する指標)	公立福祉作業所の廃止	施設数	目標値	/	/	1
			実績値	/	/	1

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成27年度は計画どおりにすみだ厚生会館を廃止でき、行財政改革の推進が図られた。旧利用者は新たに(福)墨田さんさん会が整備した空ゆけ未来工房にて受け入れられ、適切に支援を受けている。
---

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	心身障害者福祉費	目	心身障害者福祉費	
27年度歳出予算額	180,914	27年度歳出決算額	180,914	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	/		15,800
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		障害者就労継続支援施設整備費補助金					
27年度実績額	180,000	28年度予算額	10,800	対象	公立福祉作業所の廃止に伴う利用者受け入れ施設の整備費に係る一部補助		
開始年度	27年度	根拠法令	区長単行決定による補助				
算定基準	補助単価×定員数×補助率			補助率	3/4		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価
<p>区立福祉作業所は建物の耐震性や老朽化の課題があり、早期に課題を解決する必要性が高い。</p>			
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価
<p>東京都内において就労継続支援B型事業は民間法人による運営が大多数であり、社会福祉法人に運営を継承するために施設整備費の一部補助を実施することは有効である。</p>			
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価
<p>公立福祉作業所の運営に係る経費及び人員が削減され、事業の効率性が高まる。</p>			
(4)現状と課題	<p>墨田福祉作業所の廃止には、現利用者や家族の理解を得て実行する必要がある。</p>		

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	喫緊性のある墨田福祉作業所は定員数が多いことや、整備予定地の既存建物の取り壊し費用が発生することから、すみだ厚生会館に比べて多額の費用が必要となる見込みであり、拡充とした。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>墨田福祉作業所が廃止されると、当該事業は終了となる。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第4回定例会	
	要旨	すみだ厚生会館の廃止後、跡地はどのように活用されるのか。	